理事に就任にして

株式会社アサノ大成基礎エンジニアリング　東北支社長
根本　剛

はじめに

令和4年10月に寺田正人の後任として東北地質調査業協会の理事に就任いたしました株式会社アサノ大成基礎エンジニアリングの根本です。

仙台に生まれ仙台で育ち、社会人になってからは東京、福岡などの勤務を経ましたが、故郷である仙台に戻ることが出来て嬉しく思っております。

コロナによる制約からもようやく解放された感がありますので、協会活動を通じて益々社会貢献に取り組んで参る所存ですので何卒よろしくお願いいたします。

自己紹介

前段でも触れましたが生まれは仙台で、宮城球場（現楽天モバイルパーク宮城）の近くで多くを過ごしました。

幼少の頃はロッテオリオンズが準フランチャイズとして宮城球場を使用していたことから、今も変わらずロッテファンです。

〈当時の宮城球場〉

あまりいないとは思いますが、同じくロッテファンの方がいらっしゃいましたら是非お声がけください。

小学生の頃には宮城県沖地震が発生し、建物の倒壊やブロック塀の下敷きとなって多くの犠牲者が出ました。

私の家もタンスや食器棚が倒れるなどめちゃくちゃになったことを覚えています。

家に一人だったので本当に怖かったです！

幼少期から始めた剣道を中学まで続けたのですがあまり上達することは出来ず、高校ではバレーボール部に所属しました。

強豪校ではなかったのですが、仲間にも恵まれて高校卒業後もしばらくは趣味として続けることが出来ました。

私が高校生の頃はまだ地下鉄もなく自転車で通っていたのですが、寄り道する長町の少しさびれた飲食店街に心惹かれたものでした。

隠れた名店も多く仙台の名所と思っておりますので近くに寄られた際は是非。

〈長町２番街の風景〉

大学は理系ではなく法学部に属し、刑事訴訟法を専攻しました。

とはいえ法律家を目指したわけではないので、大学時代はアルバイトに精を出

し、友人達と遊んだ記憶しかありません。

当時はまだバブルの最中で、飲食店でアルバイトをしていた私にとって社会人の方々の振る舞いや羽振りの良さはとてもかっこよく映りました。

社会人になった自分も学生が夢を見れるような人間にならないといけないと思うのですが、なかなか難しいです…

大学4年生になって友人と海外に卒業旅行を計画していたのですが、湾岸戦争が勃発し断念することになりました。

多国籍軍対イラクの攻防が毎日のようにTVに映し出され、とても衝撃を受けました。

今もウクライナやイスラエルなど戦争の終わりが見えない状況ですが、平和的な解決を望むとともに、日本が復興の手助けをするならば我々も役に立てることがあるかもしれません。

社会人になって東京に住み、３年目にオウム真理教による地下鉄サリン事件が発生しました。

当日日比谷線に乗ろうと駅に向かうと全線運休となっていて、タイミングがずれていたらと思うと背筋が凍りました。

また、同年には阪神・淡路大震災もあって、日本にとって大変な１年になりました。

平成８年、今の会社に入社し、この業界を知ることとなったのですが、土木とは無縁の私にとって分からないことだらけでしたが、業界の先輩方からいろいろなことを優しく（？）教えていただき、少しずつですが仕事を覚え成長できたことは感謝の気持ちでいっぱいです。

この業界の良いところは会社の枠を超えて若いひとを応援してくれることだと思っているので、今後少しでも恩返し出来るよう私も積極的に声掛けしていきたいと思います。

今後の抱負

東日本大震災発生後、皆さんも忙しい日々を過ごしたと思います。

私の近所では会社が休みになったというひとが多かったのですが、やるべきことがあるということに私は喜びを感じました。

地震発生の週明け月曜日に沿岸部を視察しようと車を走らせると、国道45号線がすっかり啓開されていることに感動し、勇気をもらったような気がしました。

絶望的な状況でも確実に一歩進んでいて、次は我々の番だという思いです。

地質調査業協会が担う大きな役割として、災害復旧への貢献があり、我々にしか出来ないことが沢山あります。

協会員の持つ技術力や生産力、そして結束力を持って取り組むことが大きな地域貢献、社旗貢献につながりますので、私も理事として微力ながら尽力してまいりたいと思います。

今後ともよろしくお願いいたします。

理事に就任して

大日本ダイヤコンサルタント株式会社　東北支社副支社長
佐藤　春夫

1.はじめに

令和5年7月に大賀政秀の後任として、東北地質調査業協会の理事に就任致しました、大日本ダイヤコンサルタント株式会社東北支社の佐藤と申します。

私は、令和5年6月まで弊社本社人事部で、人事、新卒・中途採用、企画等を3年3カ月ほど行っておりました。また、平成15年から当協会技術委員として地質調査業の発展のために20年余り協会活動を続けて参りましたが、この度、理事に拝命されまして、益々、業界の発展と地質調査業の地位向上に努めて参る所存です。

2.自己紹介

出身は、岩手県花巻市です。土建屋の息子に生まれ幼少から土いじりと建設機械が大好きな子供で将来は、土建屋の後を継ぐのかなと思っていました。花巻と言えば「雨ニモマケズ」で有名な宮沢賢治の生誕の地で幼少から高校まで過ごしました。賢治先生は、童話や詩で知られておりますが、この他にも教育者（花巻農業高校の教諭）、農業者として、更に天文・気象・地理・歴史・哲学・宗教・化学・園芸・生物・美術・音楽など多方面でその才能を発揮された花巻を代表する偉人です。

小学校での学習発表会では宮沢賢治の童話を取り上げたり、野外活動で記念館の掃除を行ったりと親しみ深い方でした。

小学校で少年野球、中学校でも野球部に所属しておりましたが、万年補欠で夏は、野球の練習が終わると川で泳ぐ毎日だったので水泳が得意となり、高校では、水泳部に所属しておりました。

大学からは実家を離れて仙台の大学に進学し、土木工学を勉強しました。地すべりの研究室（指導教官：盛合禧夫）に所属し、土木工学だけではなく地形や土木地質を学びました。また、当時は酒研と呼ばれ何かあるたびにお酒を酌み交わしており、楽しい大学生活を送りました。

宮沢賢治
（国立国会図書館「近代日本人の肖像」）

ここでまた、「わんこそば」と言えば盛岡と思う方が多いと思いますが、諸説ありますが、わんこそばの発祥地は岩手県花巻市で、南部利直公が江戸時代に上京する際に花巻に立ち寄り、出された少量のそばを気に入り、何杯もお代わりしたことが由来とされる説が有力の様です。私も何度も食べましたが、一杯食べる度にマッチ棒を1本ずつ置いて数えるのですが、途中から面倒になり無精した

ので、70～80杯程度でしょうか。昨年３年振りに開催された2023年の大会では、228杯が優勝記録とのことで、到底敵いません。

最後に地質に関連する話題で、花巻のイギリス海岸という名所をご存じでしょうか。花巻駅東方約２kmにある北上川西岸です。イギリスのドーバー海峡の白亜の海岸を連想させる泥岩層が露出することにちなみ、賢治がイギリス海岸と命名しました。作品「イギリス海岸」の中で「全くもうイギリスあたりの白亜の海岸を歩いてゐるやうな気がするのでした。」と記しているとおり、賢治にとっての憧れからこの名を付けたと言われています。現在は北上川水系のダム整備による河川管理が進み、水位が下がらなくなったため、泥岩層を見ることが難しくなっています。毎年賢治の命日である9月21日には、関係各所にご協力いただき、５つのダムや猿ケ石発電所にて水量を調整して川の水位を下げる試みを行っています。

イギリス海岸（花巻市HPから引用）

3.会社紹介

弊社は、昭和38年（1963年）三菱鉱業（現：三菱マテリアル）の資源系の地質調査会社として設立し、地質・地盤に強い総合建設コンサルタント（旧ダイヤコンサルタント）として成長して参りました。その後、社会情勢の変化に伴い環境、エネルギー事業、メンテナンス分野に業務を拡大し、昨年5月で創立60周年を迎えました。そして、令和3年7月DNホールディングス設立（スタンダード市場上場）株式会社ダイヤコンサルタントは、大日本コンサルタント株式会社と共同持株会社DNホールディングス株式会社を7月14日に設立しました。令和5年7月に株式会社ダイヤコンサルタントと大日本コンサルタント株式会社は、合併して大日本ダイヤコンサルタント株式会社として、従業員1,278名の新たな事業会社に生まれ変わりました。

新会社は、「人と自然が微笑む社会へ」を目指して大地と文化と人に真摯に向き合い、知恵と先端技術を社会に還元しながら人と自然が調和する未来を創造する企業理念を基に邁進しております。

4.今までの協会活動

冒頭に書きましたが、平成15年から当協会技術委員として試験監督、講習会講師、地質技術者セミナー（旧若手セミナー）の企画、運営を行ってきました。特に、地質技術者セミナーの企画、運営を20年余り担当しており、建設現場の

見学や著名人による講習会、技術委員による講習、ボーリング掘削現場見学など色々な企画を行ってきましたが、参加者で評判が良かったのは、現場見学です。「神は細部に宿る」と言いますが、現場見学で細部を見聞きしたことが有益な知識となった様です。

参加者の推移ですが、平成15年当時は、20～25名だったのに対し、年々参加者の減少と30代以上のベテラン技術者（高齢化）が中心となり、平成24年には参加者が十数名と少なくなり、平成25年に若手の参加者が殆どいない状況を踏まえて、「若手セミナー」から「地質技術者セミナー」に改名しております。ここ数年は、震災後の復興需要で各社新卒採用の増加により、入社１～３年目と女性技術者の参加が目立つ様になり、業界としても若返りとダイバーシティの推進が図られてきています。

今後は、少子高齢化による労働人口の減少の影響で、地質調査業界もダイバーシティ＆インクルージョンの推進による多国籍かつ多様性を持った人材が活躍する様になるものと考えております。

5.おわりに

長々と書いてしまいましたが、地質調査業の地位や社会への認知度は、まだまだ低いと考えております。業界全体のアピールとして建設事業への地質リスク活用による手戻りの少ない公共事業の推進や、地質調査の重要性をアピールし、防災・減災に地質情報の重要性を認知していただくことが重要であります。また、災害協定による災害対応への取組による社会貢献や、地質調査業務へのDX（デジタルトランスフォーメーション）の活用、SDGｓ、カーボンニュートラルへの取り組みとして再生可能エネルギーやGX（グリーントランスフォーメーション）の推進を協会全体で取り組んでいく為に、協会員の皆様のご協力と協会活動へのご支援を宜しくお願い致します。

以上